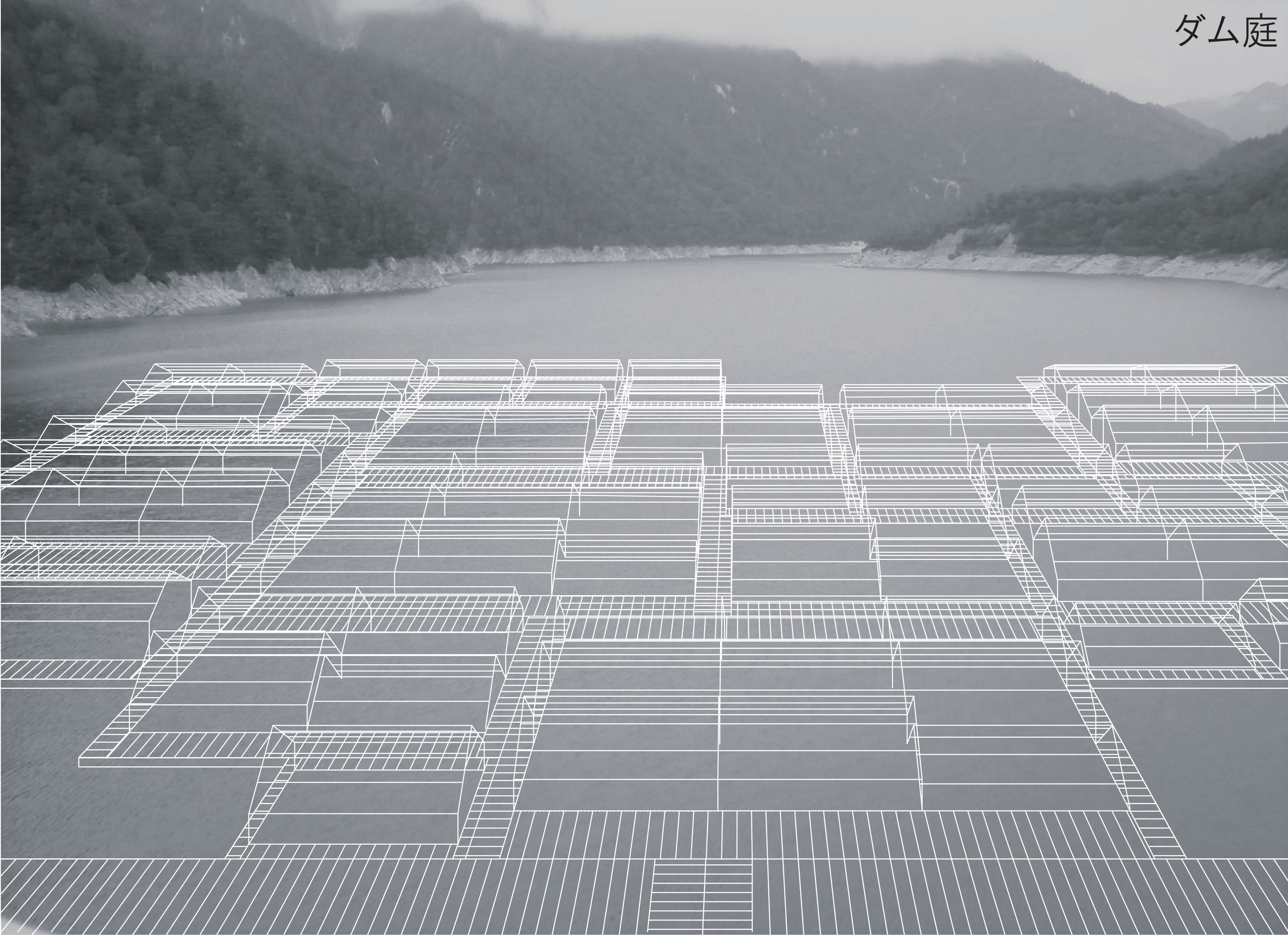
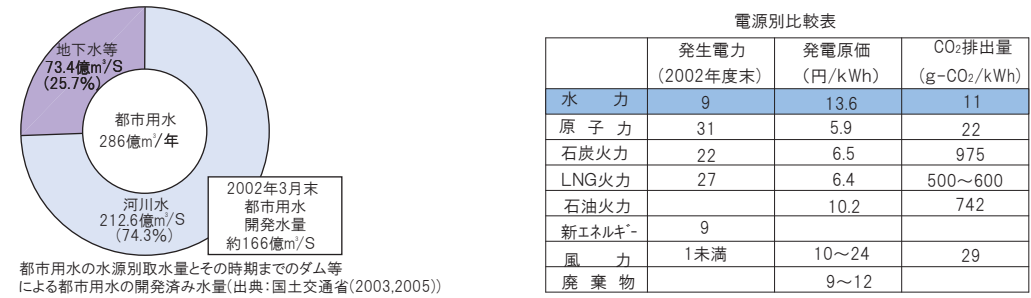


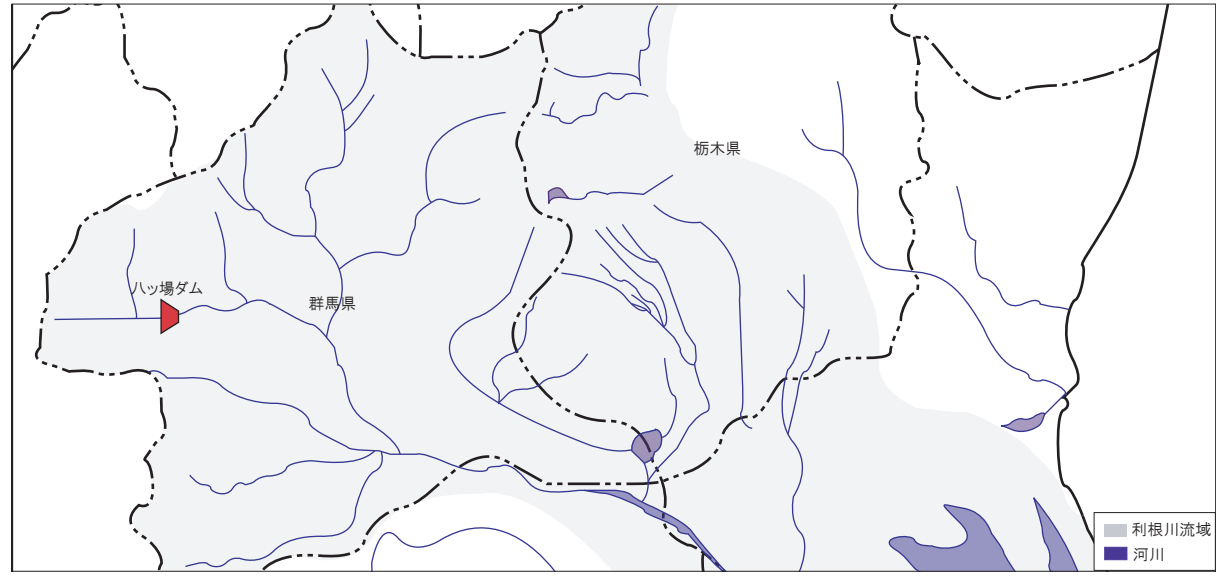
# ダム庭



■背景  
昨今、わが国におけるダム建設は、自然環境や経済の観点から問題視されることにより、脱ダムやダム建設廃止などの運動が起こっている。しかし、その一方都市の水不足や電力供給時の二酸化炭素排出量の観点から見ると、ダム建設は必要であると考えられ、ダムを建設した後に起こる自然環境などへの影響は、ダムを利用していくことで人々に守衛意識が生まれ、解決していくこととする。

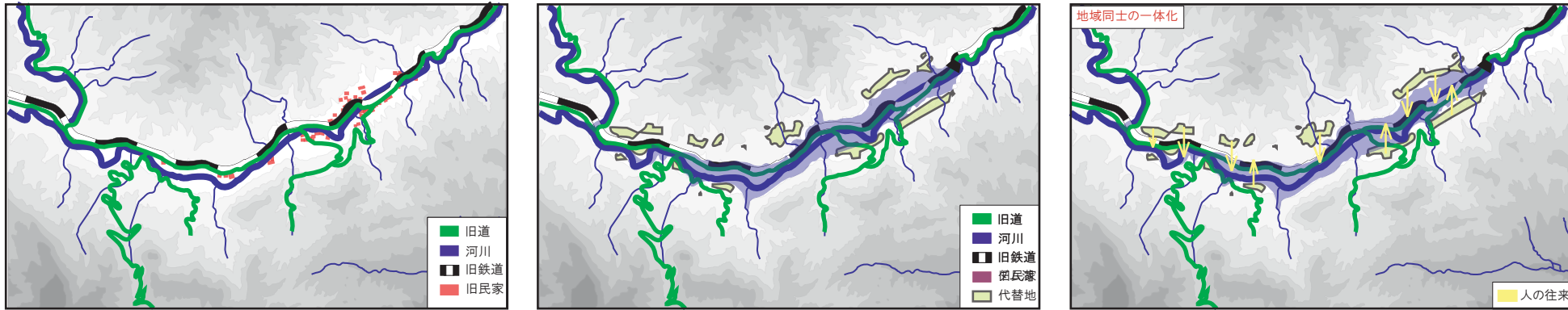


■敷地選定  
現在、建設が中止になってしまったダムとしてハッ場ダムがあげられ、利根川流域に建設されることによる都市へ水を配給するダムや地域の住民の意向を考慮すると、建設する価値のあるダムだと考える。

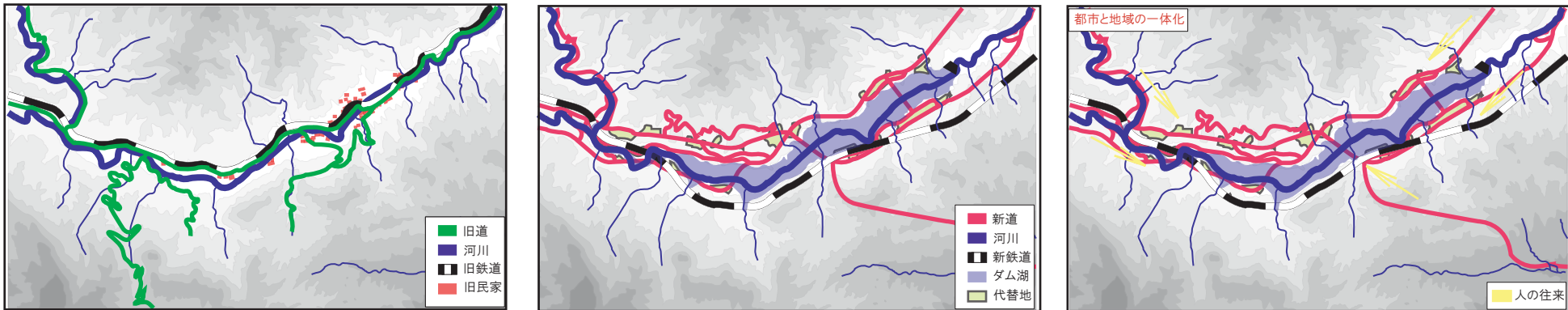


西立面図 1/200

■計画  
ハッ場ダムではすでに新たな代替地の計画があり、その計画では昔存在していた街がダム湖で沈み、新たにダム湖の周りに代替地が建設される。それにより、街は二分化され地域住民の関係は希薄になる。そこで、ダム湖を媒介として街を昔のように街を一つにすることで、ダム湖を街の一部とする。



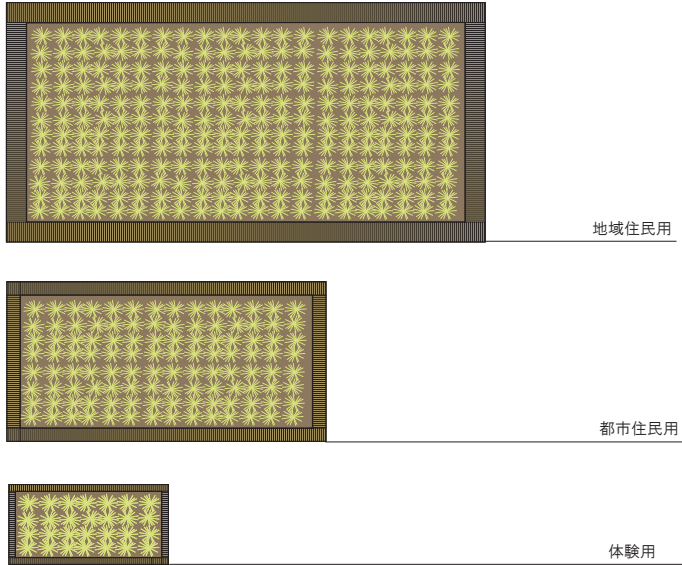
ハッ場ダムが建設されることで、ダム周辺には国道や新しい鉄道が建設されるため、外からの介入が見込まれる。そこで、外から訪れる人たちにも利用できるような施設を設けることで、ダムを内からの介入と外からの介入ができるような中間領域としての空間とする。それによって、ダム湖は縁側のついた昔の民家の庭のような存在となると考える。



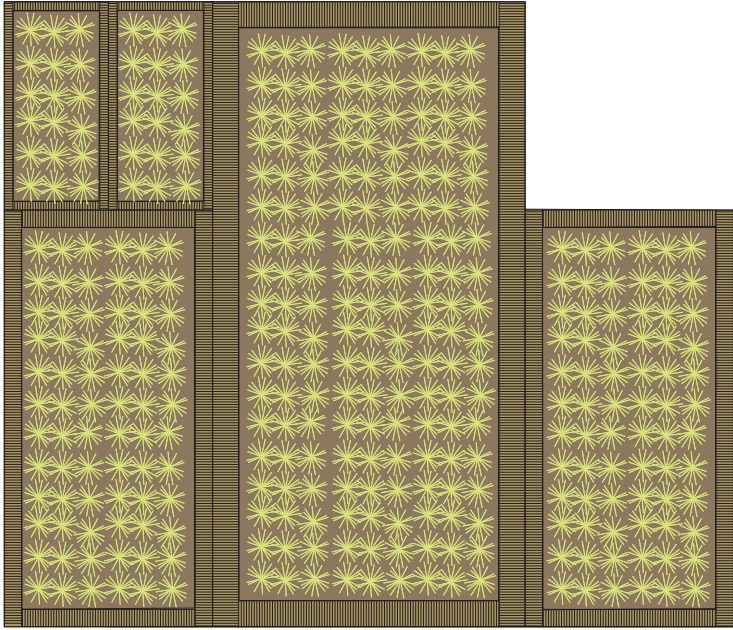
■設計  
ダム湖の水上に設ける施設として、フローティングの水田を提案する。ハッ場ダム周辺で盛んな水田を展開することで地域の人たちはダム湖に向かうようになり、また貸し水田を行うことで都市部からの人々を呼び込む。

□ダイアグラム

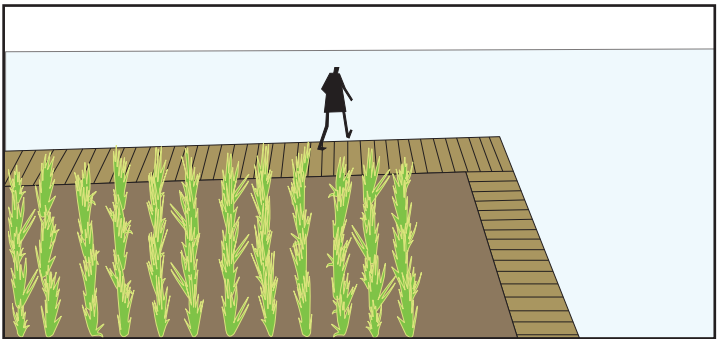
STEP1 水田を3パターン用意



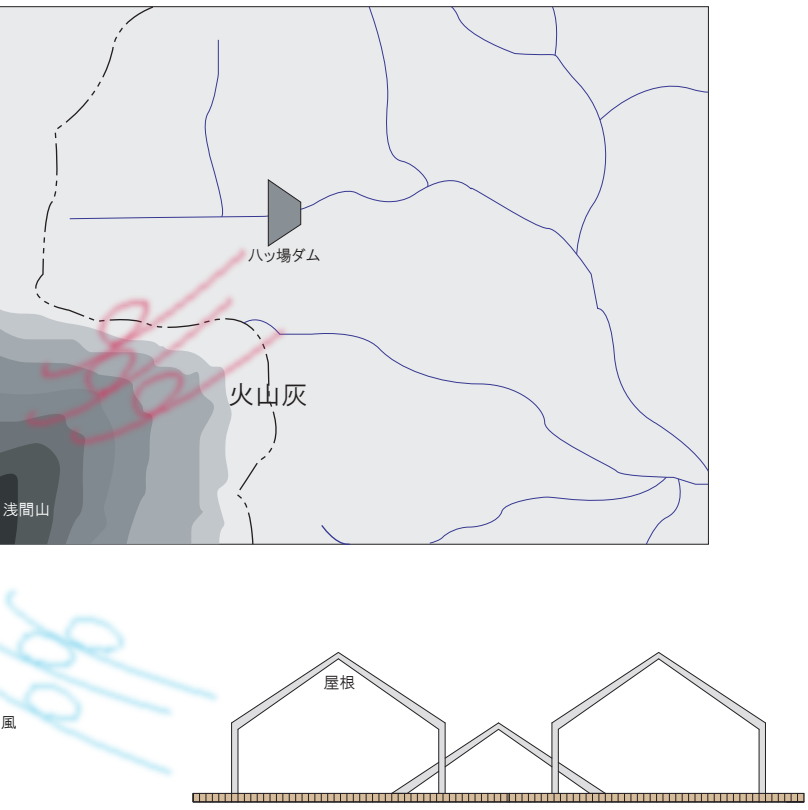
STEP2 水田をランダムに構成  
地域住民と都市住民の交流を図る空間としていく。



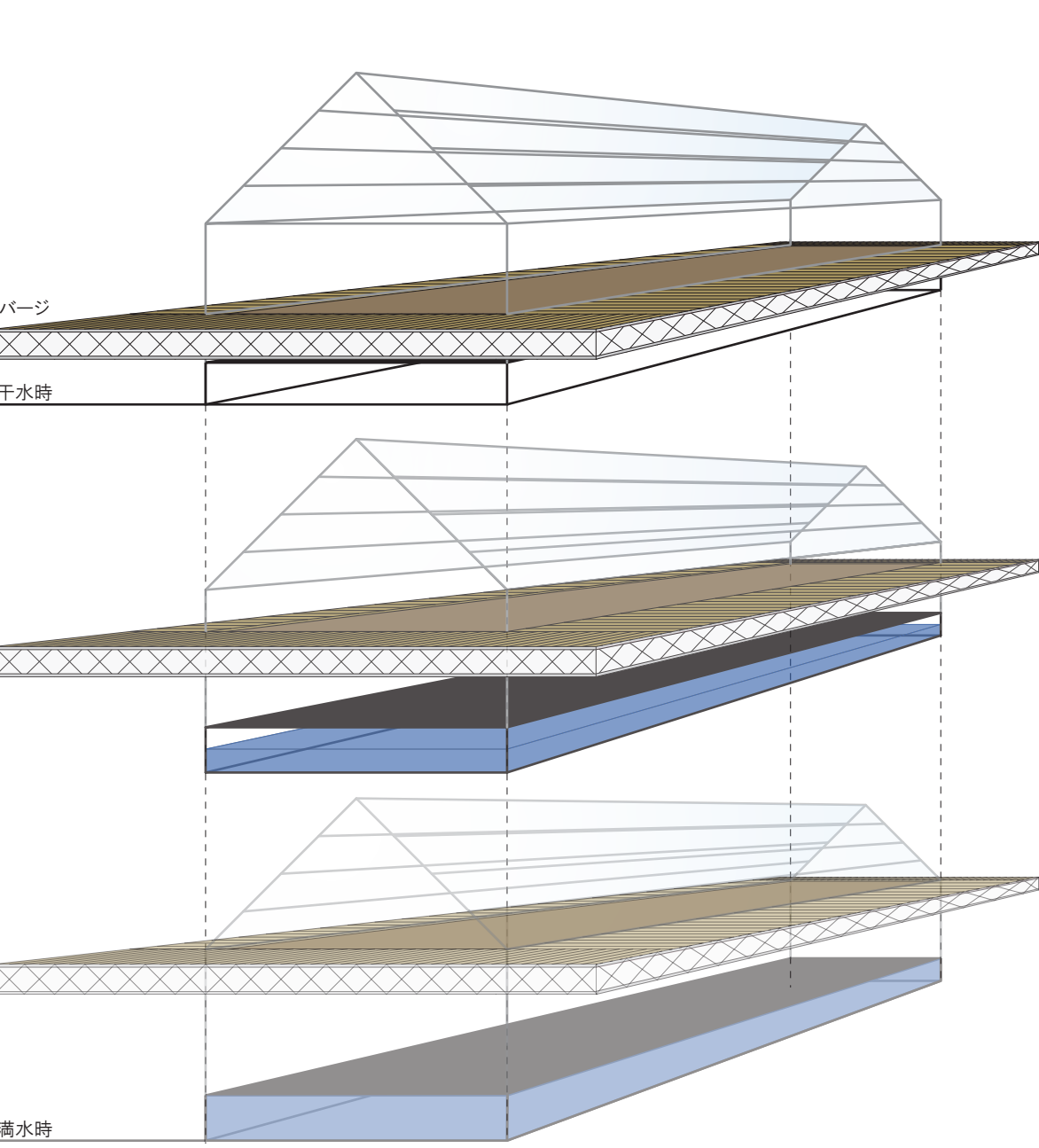
STEP3 フローティングとして活用  
水に近づくことで、ダム湖へ意識を向かわせる。



STEP4 水田に屋根を設計  
ハッ場ダム周辺では、季節風による浅間山からの火山灰が降り注いり、渓谷風が吹くことから、田植え時期の弱い苗木を守る役目として、屋根を設置する。

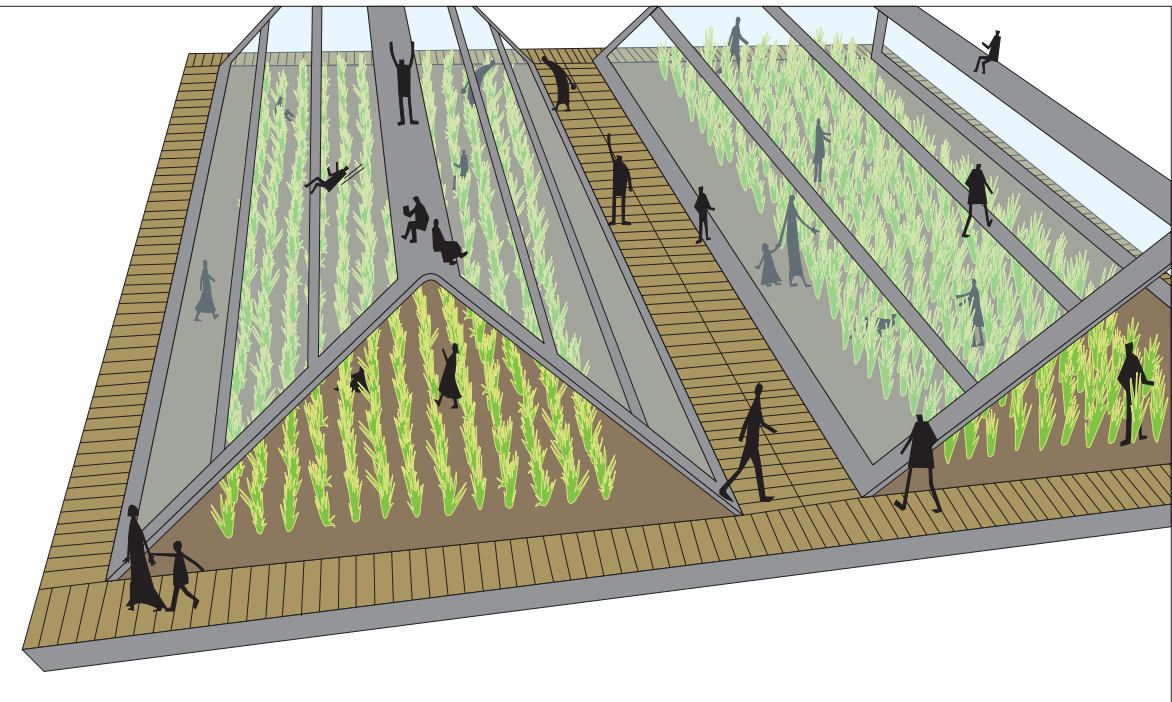


□フローティングシステム  
バージの下に水槽を設け、水田に水を散布すると水槽の水がなくなり屋根が浮上する。そして、作業が終了したらダム湖の水を水槽に入れることで屋根は沈下する。

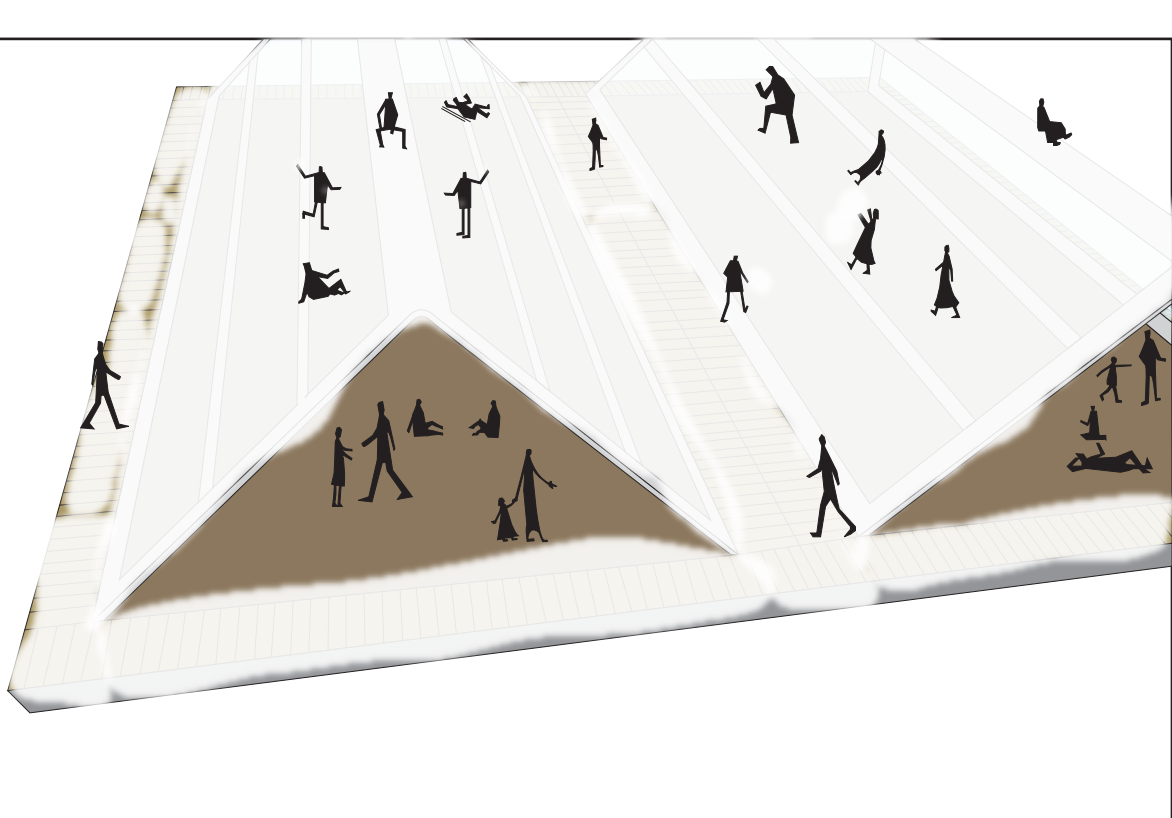


■遊び環境の創出  
水を散布し屋根が下がることにより、水田だった場所は子供達の格好な遊び空間となる。子供が水田で遊ぶことで、子供の内からダムの守衛意識が生まれると考える。

□夏の遊び空間  
屋根を利用した滑り台や頂上での読書、そして、育った稲を利用したかくれんぼなどができる。



□冬季の遊び空間  
ハッ場ダムでは、冬に多くの雪が降ることから、屋根に雪が積もり水田がかまぐらの役割をしたり、周りでは、雪合戦が行われたり、屋根を利用した雪だるまなどが作られる。



平面図 1/2500

断面図 1/500